

平成 21 年 6 月 1 日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）  
 研究期間：2007～2008  
 課題番号：19820007  
 研究課題名（和文） ロシアの東方拡大とムスリム支配機構の成立  
 ：18世紀後半のタタール人の役割  
 研究課題名（英文） Russian Expansion to the East and the Establishment of Structure  
 for Ruling Muslim: the Role of Tatars in the Latter Half of the 18<sup>th</sup> Century  
 研究代表者  
 濱本 真実（HAMAMOTO MAMI）  
 東京大学大学院・人文社会系研究科・研究員  
 研究者番号：00451782

## 研究成果の概要：

本研究は、16世紀半ば以降のロシアの東方拡大において、最初にロシアに吸収されたタタール・ムスリムに注目したものである。急速に領土を拡大した帝政ロシアで、タタール人は、ロシア正教に改宗した者はもちろん、ムスリムにとどまった者も、ロシア政府に少なからぬ影響を与えた。本研究においては、ロシア側が異教徒であるタタール人をどのように扱ったのかというロシア側の視点とともに、18世紀には主に商人やムスリム聖職者となってロシア政府に影響をおよぼしていたタタール人側の視点も取り入れることにより、いわば「ロシアのアジア性」の一面を明らかにし、さらに、多民族帝国としてのロシアの成り立ちを解明した。

## 交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,320,000	0	1,320,000
2008年度	1,350,000	405,000	1,755,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,670,000	405,000	3,075,000

## 研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：ロシア、ムスリム、タタール、18世紀、支配機構

## 1. 研究開始当初の背景

ソ連崩壊後、現代政治の世界でも、歴史研究の世界でも、帝国研究が盛んである。帝政ロシアは、ハプスブルグ帝国、オスマン帝国とともに、近代を代表する広域帝国であり、近年は多民族帝国としてロシアを捉えなおす研究が次々と出されている。本研究も、その流れのなかにある。

タタール人は、ロシア政府が支配下に入れた最初のムスリム集団である。同じくムスリムを中心とした中央アジア諸国がソ連崩壊

後に独立したのに対し、タタール人が多く居住するタタールスタン共和国はロシア連邦にとどまり、独立国家とはなっていないことから、宗教の違いにも関わらず、ロシアとタタール人の結びつきは強いということがわかる。

しかし、16世紀半ばにロシアが、タタール人をはじめとする多くのムスリム諸民族を従えて以降の、ロシアとタタール人、あるいは、ロシアとムスリムとの関係について、行政史料を用いた本格的な研究が始まったの

は、歴史研究に対する政治的な束縛から旧ソ連圏が解き放たれた 1991 年以降であり、ロシア帝国において、政治的・文化的・経済的に、ムスリムを代表する存在だったタタール人が、実際にはどのような存在だったのかは、まだ明らかにされていないといつてよい。

本研究の研究代表者は、17 世紀のタタール人がロシア社会に同化、あるいは異化されていき、17 世紀末～18 世紀初頭にかけて、タタール人がロシアの上層社会から排除され、その後、18 世紀半ばにかけて、ロシア上層社会から排除されたタタール人が、商人として台頭していく様子を 2006 年度までに明らかにしている。本研究では、研究代表者のこれまでの研究をうけて、18 世紀後半を対象に、タタール人の、ロシア政府側での、あるいは、商人としての活動を考察対象とした。

## 2. 研究の目的

本研究では、多民族帝国ロシアにおいて 18 世紀後半以降長らくロシア・ムスリム統治の基礎となった支配機構の成立過程を分析するとともに、同時に進行したロシアの東方拡大にも注目することによって、この二つの出来事が、18 世紀末のタタール人の台頭という現象を媒介にして結びついたものだったことの実証を目指した。そのうえで、ロシアと中央ユーラシアの両方に二重の帰属意識を有していたタタール人が、中央ユーラシアにおけるロシア帝国の地位の確立に果たした役割を明らかにすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

上記の目的を果たすため、具体的には、18 世紀後半のタタール人とロシア政府との、政治・宗教的側面における協力関係、および、彼らの政府に対する影響力の源となった広範な商工業活動の二点について考察した。

どちらの点についても、主たる史料は行政文書である。当初は、未公開の行政文書の調査として、サンクトペテルブルクのロシア歴史文書館 Rossiiskii gosudarstvennyi istoricheskii arkhiv における調査を中心に考えていたが、残念ながら、文書館の移設のために、2007-2008 年のほとんどの期間、この文書館が閉館となってしまう、ロシア歴史文書館における行政文書の調査は実現できなかった。このため、サンクトペテルブルク以外の都市、モスクワとオレンブルクにおいて、未公開の行政文書の調査を行った。

タタール商人に関して 18 世紀後半の重要文書を所蔵しているオレンブルク地方文書館は、5 年前の火事でかなりの数の文書を喪失したということであり、目当てにしていた文書のうちのいくつかの実見はかなわなかったものの、それでも多くの重要文書を写真撮影することができた。モスクワでは、ロシ

ア国立古文書館 Rossiiskii gosudarstvennyi arkhiv drevnikh aktov で調査を行い、ロシア上層部に食い込んだタタール人に関する行政文書の調査を行った。

未公開の文書の調査のほか、既公開の文書史料も、ヘルシンキ、ペテルブルク、モスクワの図書館において閲覧し、重要な部分に関してはコピーをとるか、写真撮影を行った。特筆すべきはヘルシンキの図書館であり、噂どおり、帝政期の重要出版物を漏れなく集めている感があった。ここでは、自由に書籍を写真撮影できたために、多量の書籍をデジタル映像として取得することができた。

これらの行政文書史料の調査・収集とともに、訪れた各都市では、日本に所蔵されていない、タタール人に関する研究文献も調査・収集した。

## 4. 研究成果

研究成果の第一は、「研究の方法」の項目で記した、タタール人関連の行政文書の収集である。一次史料を幅広く収集したので、今回の研究にはもちろん、今後の研究にも大いに役立つと考えられる。

研究成果の第二は、18 世紀半ばから後半にかけてのタタール人の台頭を、収集した史料をもとにして、商人としての活躍に焦点を当てて明らかにしたことである。この点に関する考察により、タタール商人が、ロシア政府の強力な支援を得て、18 世紀後半以降、ロシア＝中央アジア貿易の拠点となるオレンブルク近郊に、タタール人による植民都市カルガルを建設し、その後もロシア政府との協力関係を保ちながら、ロシア＝中央アジア貿易を一手に握る存在に成長していった過程を解明した。この成果に関しては、まず、2007 年 12 月に北海道大学スラブ研究センターにおけるシンポジウムにおいて、Tatarskaia Kargala in Russia's Eastern Policies と題する英語の報告を行った。この報告を増補し、論文としてまとめた原稿をすでに提出済みであり、この論文は近々、論文集のなかの一論文として出版される予定である。

また、このシンポジウムでの報告をさらに発展させ、タタール商人の活動を、ロシアと中央アジアとの関係だけでなく、新疆を含めたユーラシアのテュルク民族全体のなかに置き、その活動の広範さと重要性についてより説得的に叙述したのが、2008 年 9 月にロシア連邦タタールスタン共和国首都カザンのカザン国立大学において行ったロシア語での報告「タタール商人によるヴォルガ・ウラル地方と中央アジアを結びつける役割：18-19 世紀」である。この報告については、現在論文の形に改訂している最中であるが、2010 年度中には、ロシア語の論文集のなかの一論文として出版される予定である。

この二つの報告により、タタール商人のロシア政府との密接な協力関係が明らかにされ、ロシアの経済的な中央アジア進出に際し、タタール商人が多大な貢献をしたことがわかった。この成果により、ロシア帝国における東方民族の代表ともいえるタタール人が、被支配者であったばかりでなく、帝国の拡大にも積極的に協力したことが証明され、ロシア帝国論における東方民族の在り方に、新たな見解をもたらすことができたのではないかと考えられる。ふたつの国際学会における報告のコメントや質疑においては、幸いにしてこの研究に肯定的な評価が与えられた。

いっぽうで、ロシア政府によるムスリム支配機構の成立過程に関する研究としては、18世紀末にロシア政府によって設立されたムスリム宗務局について、さまざまな研究書から情報を集めたほか、オレンブルクで収集した行政文書からも、ムスリム宗務局のムフティやカーディーの職を務めた人物の情報を抽出した。この結果、ムスリム宗務局の設立時と設立後のタタール人の大きな役割の概要をつかむことができた。

ただし、この点に関する研究では、ムスリム宗務局に関する網羅的な研究である、在オレンブルクの研究者 D. D. Azamatov による大著『18世紀末から19世紀のムスリム宗務局』(ウファ、1999)を大きく超える成果を得ることができず、成果を学会での報告や論文の形にはまだまとめることができないでいる。

よって、研究の目的にかかげた、ロシアにおけるムスリム支配機構の成立過程と、ロシア東方拡大の分析のうち、後者については、タタール人の商人としての活動とロシアの東方拡大の関係を一定程度は明らかにできたが、前者については、先行研究の確認の段階にとどまっているといえる。タタール人の、イスラーム聖職者(ロシアにおいては、イスラームにおいても聖職者が存在すると考えられていた)としてのロシア政府との結びつきの研究と、これら聖職者と商人により、ムスリム支配機構の成立とロシアの東方拡大が促進された点の実証は、今後の課題として残された。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

(1) 濱本真実「1649年法典とリトアニア法典における異民族：タタール人に関する条項を中心に」『ロシア史研究』第80号、2007年、25-35頁、査読無し

〔学会発表〕(計4件)

(1) Hamamoto Mami, “Russification of Muslim Elites and Russian Aristocratic Society in the 17th Century: An Analysis Based on the Genealogy of the Narbekov Family,” International Conference on Central Eurasian Studies: Past, Present and Future, 2009年3月18日, トルコ共和国イスタンブール市マルテペ Maltepe 大学

(2) Khamamoto Mami, “Sokrashchenie blasti pravitel'ia Kasimovskogo tsarstva v 1620 kh gg. (1620年代におけるカシモフ皇国君主の権限削減),” Piatye “Zubovskie chteniia” (第5回ズボフ氏記念研究会), 2008年10月16日, ロシア連邦ロシア共和国アレクサンドロフ市アレクサンドロフ・スロボダー博物館

(3) Khamamoto Mami “Sviazuiushchaia rol' tatarskikh kuptsov Volgo-Ural'skogo regiona so Srednei Aziei (vtoraia polovina 18-19 vv.), (タタール商人によるヴォルガ・ウラル地方と中央アジアを結びつける役割: 18-19世紀),” Mezhdunarodnaia konferentsiia “Volgo-Ural'skii region kak perekrestok Evrazii: imperiia, islam i natsional'nost' (十字路に立つヴォルガ・ウラル地域: 帝国, イスラーム, 民族),” 2008年9月19日, ロシア連邦タタールスタン共和国カザン市カザン国立大学

(4) Hamamoto Mami, “Tatarskaia Kargala in Russia's Eastern Policies,” The Slavic Research Center, Hokkaido University 2007 Winter International Symposium “Asiatic Russia: Imperial Power in Regional and International Contexts,” 2007年12月6日, 北海道大学スラブ研究センター

〔図書〕(計1件)

(1) 濱本真実, 東京大学出版会, 『聖なるロシアのイスラーム: 17-18世紀タタール人の正教改宗』, 2009年, 280頁

〔その他〕

(1) 文献短評  
Hamamoto Mami, “TOYOKAWA K.,” *Central Eurasian reader: A biennial journal of critical bibliography and epistemology of Central Eurasian studies*, ed. S. A. Dudoignon, Berlin, 2008, pp. 188-189

(2) 書評

濱本真実, 「豊川浩一著『ロシア帝国民族統合史の研究-植民政策とバシキール人』北海道大学出版会, 2006年, 558頁」, 『ロシア史研究』, ロシア史研究会, 80号, 2007年, 79-83頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

濱本 真実 (HAMAMOTO MAMI)  
東京大学大学院・人文社会系研究科・研究員  
研究者番号: 00451782